

現代舞踊協会主催の新人舞踊公演《DANCE PLAN 2019》が二日間にわたり行われ、三十四作品が上演された。第一日の現代舞踊十六作品では、村山藍子の『あい』、須崎汐理の『脆弱を裂く』、蒲田真美子の『ダンテの詩想』、西田知代の『哀鳴』の四本が印象に残った。

村山は贅田麗帆・

鈴木泰介ダンスアトリエ所属。赤い衣裳をみごとに着こなした鋭い動作に、観る者の心を射抜く迫力があつた。須崎は金井桃枝舞踊研究所所属。横からライトを当てた舞台での、内に秘めた想いの語り掛けに説得力があつた。蒲田は平多結花に師事。椅子を使った動きの思いがけない展開が楽しかった。西田は内田香に師事。じわじわと積み上げた動きの世界には独特の詩情が漂った。他に、荒澤来瞳（坂本秀子門下）、曲沼宏美（坂本秀子門下）、工藤史皓（すぎきさよこ門下）、東北支部推薦の間瑞希（横山真理門下）に注目した。

第二日は、現代舞踊十二

本、スペイン舞踊六本だった。印象に残ったのは、安達雅の

現代舞踊協会・新人舞踊公演

《DANCE PLAN 2019》で34作品

『真夜中のカルテット』、伊藤麻子（中部支部）の『掴めない水』、山内梨恵子の『草の音色』の三本だった。安達は島田美智子モダンバレエ研究所所属。自身を含む四人の女性ダンサーのしっとり落ち着いた動きのやりとりが美しかった。伊藤は石川雅実ダンス・カンパニー所属。動きのストレートな感触が心に響いた。山内はダンスカンパニーカレイドスコープ所属。楚々とした登場の後の意表をついた展開に独特のものがあつた。他に、宮本萌花（杉原ともじ・島田明美門下）、中部支部推薦の鈴木香緒里（石川雅実門下）に注目。

スペイン舞踊・フラメンコの部に登場した六人は、それぞれにパワフルで、個々の動きにも迫力があつた。衣裳の着こなし、さばきの具合にも修練の跡が見えた。

しかし、フラメンコは観客との親密なコミュニケーションを何よりも大事とする分野。次の舞台ではそのあたりのより一層の気配りに期待する。

（三月九、十日、スペース・ゼロ）
山野 博大